

民俗資料館だより

March 31st, 2017

KAMO CITY MUSEUM OF HISTORY NEWS No. 24

加茂市民俗資料館

館報 第24号

平成29年3月31日発行

編集・発行

加茂市民俗資料館

「民俗資料館へのいざない」

加茂市民俗資料館

館長 明田川 太門

日頃より民俗資料館をご利用いただきありがとうございます。
ございます。

「文化財は一朝にして生まれたものではない。私たちの祖先が長い歳月をかけて、その英知と技能を傾けて創造し発展させてきた所産である。しかも、民俗資料の大部分は特定の人々の創造ではなく一般庶民の生活の中から生まれたものである。文化財は私たちが育ててくれた自然とともに郷土の心のよりどころである。やがて、この文化財から次の時代のよりよい生活用具が創造されていくのである。私たちはこの文化財を失うことなく子孫に受け継ぐべき責務がある。」

と民俗資料館のパンフレットの冒頭に提言が載っています。当然ながら人々の歴史には脈々と受け継がれてきた生活があって現在が成り立っているわけです。生活の中で使用されてきたもののうち、特に貴重なものとして指定文化財になるものもありますが、それ以外の資料も過去の史実を雄弁に物語っております。

この資料館にある収蔵品をご覧いただければ、先人たちの知恵の進化を垣間見ていただけるものと思います。

40年以上の歴史をもつ当民俗資料館に一度は訪れていただき、今では使われなくなった器具や用具など現代の生活との違いを実感していただければ、この施設の目的が達せられるのではないかと思います。これからも皆様から役に立つ資料館であり続けられるよう大勢の方のご来館をお待ちしております。

「鵜森組大庄屋坂井家」

加茂市文化財調査審議会委員

佐藤 賢次

鵜森組の大庄屋

加茂市の信濃川左岸の五反田・後須田・前須田・北潟・鵜森・田中新田・砂押新田の須田地区7か村は、江戸時代を通じて新発田藩の支配下に置かれ、初めは小吉島組（中之口川と信濃川に挟まれた白根郷一帯）、慶安3年(1650)に小吉島組が細分されて鵜森組が生まれると、庄瀬村(新潟市南区)や大島新田・菰島新田・代官島新田(以上三条市)とともに鵜森組を構成する村々として藩の支配を受けてきました。組には大庄屋が置かれ、藩から給田一町歩、畑ないし居屋敷3反歩を与えられ、苗字御免の特権を許され、組下の村々の年貢収納をはじめ、藩からの下知の村々への達し、村々からの訴願の取り継ぎ、村々のもめごとの処理などに大きな権限をもって組支配を行ってきたものです。そのため大庄屋には地域で由緒をもつ有力者が選ばれますが、失態をしでかして役職を取り上げられたり、他組に転任されたりすることも多かったようです。鵜森組の大庄屋は、はじめ地元の西方家（長助・五右衛門・勘蔵の三代）が勤めましたが、延宝6年(1678)に加茂組大庄屋に転出、鵜森組は中之島組丸山村肝煎から抜擢された石田儀右衛門が就き、元禄2年(1689)に加茂組庄屋勘蔵の死で子の勘蔵が再び鵜森組庄屋に返り咲きます。しかし寛保3年(1743)、藩が進めていた地改めで鵜森組の農民らが三条町本願寺別院に集まって反対の動きをとったことを大庄屋として見逃した責任を問

いう事件です。この事件は人々の心に深く残り、事件後の享保4年(1719)に城まで焼いた新発田町大火が起きると、人々はこの大火を「与茂七火事」と呼んで、この火事は与茂七の怨霊による大火だと噂したといひます。

大庄屋をやめさせられた坂井家は前掲の「由緒書」によれば古田新田・金津村(以上新潟市秋葉区)や月岡村(三条市)の名主を転々と勤めさせられたといひます。こうしたなか、宝暦4年(1754)頃、由緒ある家柄ゆえ、月岡村名主から鶴森組大庄屋石田平四郎が^{あかしぶ}赤渋組大庄屋に転役となって明きが生じた鶴森組大庄屋に抜擢されて鶴森村に入ってくるようになったわけです。

鶴森組時代の坂井家

「新発田領村々開発録」(見附市浅野家文書)に鶴森組大庄に抜擢された彦兵衛を「中之島組にて退役いたし候茂左衛門孫」といひています。彦兵衛の跡は彦兵衛の四男の倅喜兵衛が継ぎ(宝暦13年12月)、喜兵衛は家名の彦兵衛を襲名します。この彦兵衛は天明8年(1788)7月に組内村々へ組入用費の負担割り振りに不正があったと訴えられ、藩から追ひこみ(謹慎)の処分を受けたりしています。祖先茂左衛門のこともあってか、これ以降執務に励み、寛政9年(1797)の大雨では破堤しそうな信濃川の堤防防ぎに功績があったと賞されてもいます。彦兵衛は享和2年(1811)に退き、倅瀬兵衛が跡を勤めます。瀬兵衛は坂井一族の栄光の基を築いた瀬兵衛^{よしつぐ}吉次の名を襲名しただけあってよく職務に専念し、文政元年(1818)には弟の剛兵衛を養子にし、剛兵衛も大庄屋にしてもらい、大庄屋の「^{おやこ}父子勤め」を実現しています。また天保4年(1833)には藩からその身一代は帯刀御免の許しも受けました。

瀬兵衛の跡は彦兵衛と改名していた剛兵衛が継ぎ

ますが、彦兵衛も兄同様に瀬兵衛を名乗ります。この瀬兵衛の時も弘化2年(1845)に瀬兵衛の倅誠之丞を大庄屋にしてもらい、父子勤めの榮譽を受けます。こうしてみると、この瀬兵衛を名乗った二代の時代が鶴森組支配が最も安定し、鶴森坂井家の全盛の時だったといひます。

館外活動

1 社会科出張授業

期日 4月15日 七谷小学校6年生

4月19日 石川小学校6年生

内容 縄文時代・弥生時代の社会を探ろう♪

2 映像で振り返る「懐かしの加茂」

期日 1回目 平成28年 8月12日(金)

2回目 平成28年11月29日(火)

時間 午後2時～3時30分(1・2回とも)

会場 加茂市立図書館 視聴覚室

一般参加者 1回目53名・2回目102名

映写内容

ア 「うしろ面」

イ 「昔を偲ぶ加茂の風景」

ウ 「惜別(さよなら蒲原鉄道)」

3 古文書講座

時間 午後7時～8時40分

会場 加茂市公民館第1研修室

第1回

平成28年9月6日(火) 一般参加者27名

講師 溝口 敏磨 先生

(加茂市文化財調査審議会委員長)

テーマ「加茂郷水利組合の成立」

【講座内容】

明治31年付の「加茂郷普通水利組合設置の仮認可」から、翌32年3月付の「契約交換書」という史料により、より効果的に水害を防ぐための手立てや工事、補修や維持管理の経費負担についてなど、水利組合を設立し、くわしく合議した内容を解説した。

第2回

平成28年9月13日（火）一般参加者25名
講師 関 正平 先生

（加茂市文化財調査審議会委員）

テーマ「加茂町の新町町立て史料を読む」

【講座内容】

1679年までに加茂町にはのちに本町・中町・上町と呼ばれる町場ができて、町の上・下の入り口に築地（木戸）が築かれ、町人はこの範囲で生活していた。

1690年3月17日、加茂町で大規模な火災が発生それをきっかけに加茂町の十一軒町、上条村に新町が町立された。

第3回

平成28年9月20日（火）一般参加者25名
講師 佐藤 賢次 先生

（加茂市文化財調査審議会委員）



佐藤 賢次 先生

テーマ「鶴森組大庄屋 坂井家の由緒を考える」

【講座内容】

史料の由緒書は、与次兵衛系の小須戸組大庄から田上村名主になっていた坂井八兵衛の書き上げたもので、宝暦年間に大面組月岡村名主から鶴森組大庄屋に抜擢された坂井彦兵衛のこと、特に宝暦11年に彦兵衛四男七平次の倅喜兵衛を彦兵衛の養子跡継ぎとしたことを載せているので、明和8年(1771)の卯年に書かれたものと推定される。

第4回

平成28年9月27日（火）一般参加者25名
講師 長谷川 昭一 先生

（加茂市文化財調査審議会副委員長）

テーマ「明治34年 加茂織物調査報告より」

【講座内容】

加茂は、江戸時代から四・九の六斎市が開かれ多くの人や物が集まり、様々な産業が発達した。「加茂縞」として著名な木綿縞は、明治の初め婦女の内職として織ったものが最初である。

明治20年代に藍を染料に使用することによって、声価を上げ発展した。



長谷川 昭一 先生

第5回

平成28年10月4日（火）一般参加者23名
講師 丸山 朝雄 先生

（加茂市文化財調査審議会委員）

テーマ「良寛の詩と歌」

【講座内容】

出雲崎の名主、山本新左衛門の長男として生まれた。岡山県倉敷市の円通寺の国仙和尚と出会い和尚から和歌や書を学んだ。47歳の時に国上の五合庵に定住し、69歳の時、和島の木村家に移り住むことになった。ここで40歳年下の貞心尼と出会い、お互いを慈しみ恋愛が続いた。

4 歴史講演会

期日 平成28年11月19日(土)

時間 午後2時～午後4時

会場 加茂市公民館 第1研修室

講師 長谷川 昭一 先生

(加茂市文化財調査審議会副委員長)

テーマ 「加茂市内校歌の成り立ちについて」

一般参加者 19名

【講座内容】

加茂市内の校歌の成り立ちについて、加茂市史の資料をもとに話された。資料として用意されたのは加茂市内全小中学校12校と高等学校3校の歌詞と楽譜である。

(1) 明治24年文部省は「小学校祝日大祭日儀式規定」を交付。これにより小学校で祝祭日等の儀式で歌うべき歌として「君が代」等が定められ、指定以外の歌を歌う場合は文部大臣の認可が必要とされた。これが小学校校歌の文部大臣による認可制度の始まりであり、太平洋戦争後の昭和22年まで小学校校歌の歌詞や曲を規制した。

(2) 手塚良明作詞の加茂高校二代校歌(昭和28年制定)と手塚の郷里である山梨県高根東中学校の校歌(昭和32年制定)は歌詞が似ているところが多い。

(3) 加茂南小学校二代校歌は作詞；岩佐東一郎・作曲；佐々木すぐるであり、若宮中学校校歌は作詞；堀口大学・作曲岡村敏明である。岩佐東一郎は堀口大学の弟子にあたり、南小学校の制定委員会のメンバーがそのまま若宮中学校の校歌制定委員となり、作詞をお願いしたようである。

5 特別歴史講演会

期日 平成29年年3月25日(土)

時間 午後2時～午後4時

会場 加茂市公民館 第1研修室

講師 山崎 完一 先生

(加茂市文化財調査審議会委員)

テーマ 「加茂市の近代和風建築」

～加茂市史文化財編より～

一般参加者 43名



山崎 完一 先生

【講演内容】

(1) 江戸末期から昭和初期にかけて、木造建築の伝統的技法が最盛期を迎え、住宅建築では大正・昭和初期に技術が最高点に達し、優れた和風住宅が作られた。

公共建築においても、和風意匠を取り入れた建築が数多く作られた。社寺建築等においても江戸時代から引き継がれた技法を用いて素晴らしい作品が作られた。

(2) 近代和風建築に至る道程として次のような特色が上げられる。

1600年代 重厚で閉鎖的な空間

1700年代 中期頃より大規模民家現れる

1800年代 軽快で開放的な空間

(3) 加茂市の代表的な近代和風建築の建造物をスライドで説明。

・嶽山寺(宮寄上) 観音様・本堂・長瀬神社(八幡)本殿 ・青海神社(加茂)拝殿 ・定光寺(神明町)本堂・開山堂 ・鶴巻家住宅(黒水中)主屋・酒蔵・郵便局・渡邊家住宅(岡ノ町)旧診療棟等

平成28年度の歩み

1 入館者数《平成28年4月～平成29年3月》

	市内	市外	計	団体
大人	453	895	1,348	1
中学生以下	312	159	471	7
計	765	1,054	1,819	8

2 資料収集の状況

本年度、下記の方から貴重な資料をご寄付頂きました。お礼申し上げます、紹介させていただきます。

〈寄贈者名及び寄贈品名〉

小林 寿英様(田上町)より	柱時計	1台
小林 満智様(加茂市)より	鼻緒整形器	1個
〃	屏風	1双
〃	古文書約	100点
県央歴史研究所様(三条市)より	考古資料	98点

3 レファレンス・サービス及びアンケート調査

①レファレンス・サービス (63件)

(民俗資料館への問合せの主なもの)

- ・工学博士鶴巻鶴一氏寄贈の明治時代の全国の織物の標本が出た。どのようなものか知りたい。
- ・加茂市に小柳という姓が多い事について調べているが資料がほしい。
- ・加茂に昔城があったようだが、それに関する資料がほしい。
- ・青海神社祭礼、祭りについて知りたいので教えてほしい。
- ・西宮神社の御札や資料があったら見せてほしい。

②来館者の声

- ・資料もそろっていて、懐かしさや新発見もあり、楽しく見学させて頂きました。
- ・貴重な資料を身近に見られて良かったです。特に第4展示室が興味深かったです。

平成29年度の事業予定

1 社会科出張授業

- ・対象 小学校6年生～高校生(希望する学校)

2 映像で振り返る「懐かしの加茂」

期日 1回目 平成29年 8月12日(土)
2回目 平成29年11月28日(火)
時間 午後2時～3時30分(1・2回とも)
会場 加茂市立図書館 視聴覚室
内容 「昔を偲ぶ加茂の風景」

3 古文書講座

第1回 9月 5日(火) 関 正平 先生
第2回 9月12日(火) 長谷川 昭一先生
第3回 9月19日(火) 溝口 敏磨 先生
第4回 9月26日(火) 佐藤 賢次 先生
第5回 10月 3日(火) 丸山 朝雄 先生
時間 午後7時～8時40分(1～5回とも)
会場 加茂市公民館 第1研修室
内容 未定

4 歴史講演会

期日 平成29年11月18日(土)
時間 午後2時～4時
会場 加茂市公民館 第1研修室
講師 関 正平 先生

5 特別歴史講演会

期日 平成30年3月を予定
会場及び講師 未定



【文化財審議委員による「旧生田屋」視察】

平成28年度遺跡発掘調査について

本年の遺跡調査は確認調査が2遺跡、工事立会い調査が2遺跡を対象として行った。

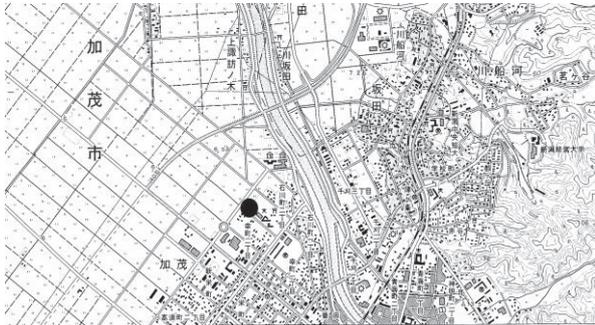
1 石川遺跡—古墳～中世—

調査地 加茂市大字加茂字石川2丁目地内

調査期間 平成28年12月20日

調査原因 農業用排水路改良工事

調査の概要 3か所にトレンチを設けた。灰色の砂質土や粘質土の堆積が認められたが、地山面まで把握できなかった。掘削した深さの中では遺構、遺物ともに確認できなかった。



石川遺跡位置図



石川遺跡 調査風景



石川遺跡 1 トレンチ

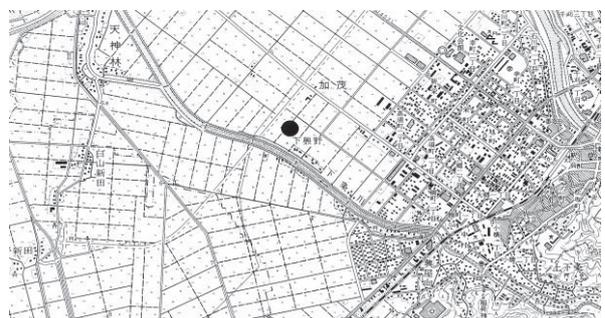
2 鬼倉遺跡—古墳・古代—

調査地 加茂市大字下条字鬼倉地内

調査期間 平成28年12月21日

調査原因 農業用排水路改良工事

調査の概要 5か所にトレンチを設けた。現在土水路の底面から約1mほど掘削したが、遺構・遺物ともに確認できなかった。腐植物層が厚く堆積し、調査対象地周辺は低湿地であったことが推測される。



鬼倉遺跡位置図



鬼倉遺跡 調査風景



鬼倉遺跡 1 トレンチ

遺跡探訪

川向遺跡—縄文時代晩期の集落跡—

川向遺跡は加茂川上流部で、加茂美人の湯に程近い加茂川左岸の段丘上にある。現在は山林となっているがかつては畑地であつたらしい。木々に覆われているため詳細な地形が見えないが、丘陵裾から張り出した南北方向に延びる細長い平坦地である。

遺跡の存在は早くから知られ、大正7年(1918)に刊行された『中蒲原郡誌』に石器などの出土する遺跡の地名に「下高柳川向」と記載されている。加茂では学史上、重要な遺跡のひとつである。

平成21年(2009)7月に遺跡の確認調査が行われている。調査は3ヵ所のトレンチで合計17㎡と小規模である。黒色の表土の下に、土器などを包含する暗茶褐色土が堆積し、遺構を確認できる地山面までは地表から約50cmの深さであった。用途は不明ながら土坑やピットが確認され、その上面には河原から持ち込まれた礫が多く見られた。

出土遺物は縄文土器と石器である。土器はすべて晩期のもので、工字文、眼鏡状浮線文、撚糸文、網目状撚糸文が見られる。これらは東北地方に広く見られる亀ヶ岡式土器様式に対比されるもので、晩期中葉から後葉(約3,000年前頃)に位置づけられる。石器は石鏃、石錐、磨製石斧、石皿、磨石などの生活用具のほか独鈷石などの呪術用具が出土した。また、かつて石冠1点も採集されている。

川向遺跡は短期間営まれた小規模な遺跡であるが、加茂川流域で数少ない縄文晩期の集落として大変貴重である。(伊藤秀和)



川向遺跡近景



発掘調査 2トレンチ



出土遺物

編集後記

小正月を中心に降った湿った雪が、木々に付着し雪だるま式に積もり、加茂山の池の大木も倒れました。果樹農家の被害も大きかったとか、温暖化のせいでしょうか。

さて、皆様のご支援を頂き、本年度の民俗資料館の事業を無事に終えることができました。最後に、今回玉稿をお寄せ下さいました佐藤賢次先生に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

加茂市民俗資料館

- 開館時間 9:00 ~ 17:00
- 休館日 月曜日、毎月第1,3,5土曜日
祝日、年末年始
※ 但し、4,5月は月曜日のみ(祝日に当たるときは次の平日)

〒959-1372 新潟県加茂市大字加茂229番地1
TEL / FAX: 0256-52-0089

E-mail: minzoku@city.kamo.niigata.jp